

2025年3月期 第2四半期（中間期）
決算説明資料

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング

2024年10月31日



（東証グロース：7774）

目次

1.	2025年3月期 中間決算のポイント	---	2
2.	第2四半期（中間期）の業績・トピックス	---	5
3.	開発パイプラインの進捗	---	20
4.	サステナブルな企業をめざして	---	24
5.	参考資料	---	26

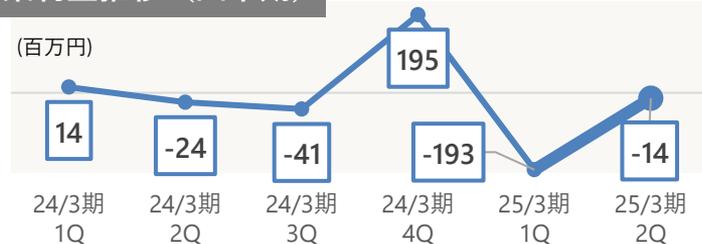
1. 2025年3月期 中間決算のポイント

中間決算のポイント（実績）

第2四半期（会計期間）実績（対四半期比）

- ✓ 当第2四半期は、第1四半期に比べ、各事業の売上が増加したことにより営業損益は改善（-193→-14）

営業利益推移（四半期）



第2四半期（中間期）実績（前年同期比）

- ✓ 再生医療製品事業や再生医療受託事業の一般顧客受託（親会社以外からの受託）は売上伸長も、帝人からの収入減、助成金減少等により営業利益は196百万円減（-10→-207）

中間期営業利益増減（前年同期比）



中間決算のポイント（通期業績見通し）

- ✓ 下期の売上増加に向けた各施策を着実に遂行し、年間営業利益120百万円を目指す（見通しに変更無し）

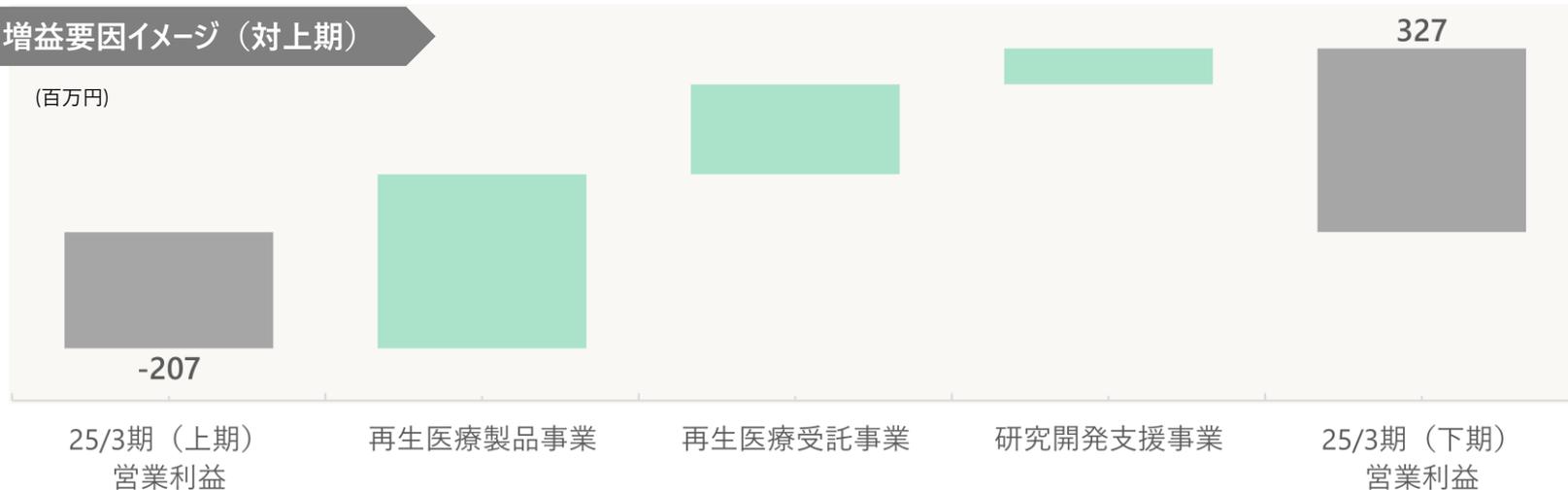
下期 重点 施策

- ・ ジャスミン販売開始による垂直立上げ
- ・ ネピック・オキュラルの当社リソース積極投入による拡販
- ・ ラボサイト EpiSensAモデルの海外展開含めた拡販

その他 下期 増益要因

- ・ ジャックの保険償還価格引き上げ影響フル発現
- ・ ジェイス熱傷及び帝人受託収入の下期偏重

下期増益要因イメージ（対上期）



2. 第2四半期（中間期）の業績・トピックス

第2四半期（中間期）の業績

- ✓ 当中間会計期間の売上高は1,161百万円（前期比6.8%減）となった。
- ✓ 再生医療製品事業や再生医療受託事業の一般顧客からの受託案件は売上伸長も、帝人からの収入減、助成金減少等により207百万円（前年同期は10百万円）の営業損失となった。

単位：百万円 (百万円未満切捨て表示) (増減率は円単位で計算)	2024年3月期	2025年3月期			
	第2四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	対前年同期		通期計画 2024.4.30開示
			増減額	増減率	
皮膚領域（ジェイス、ジャスミン）	398	477	79	19.9%	1,026
軟骨領域（ジャック）	162	202	40	24.7%	452
角膜領域（ネピック、オキュラル）	100	62	△37	△37.3%	279
再生医療製品事業	661	743	81	12.4%	1,758
一般顧客受託（親会社以外からの受託）	150	201	50	33.6%	-
帝人受託*	318	107	△210	△66.2%	-
再生医療受託事業	469	309	△160	△34.1%	836
研究開発支援事業	115	109	△6	△5.6%	350
売上高合計	1,246	1,161	△84	△6.8%	2,944
売上総利益	824	671	△153	△18.6%	-
販売費及び一般管理費	835	878	43	5.2%	-
営業損益	△10	△207	△196	-	120
経常損益	△9	△206	△196	-	123
当期純損益	△11	△225	△213	-	87

* 帝人からのマイルストーン収入 前中間会計期間（2024年3月期）：170百万円、当中間会計期間（2025年3月期）：50百万円

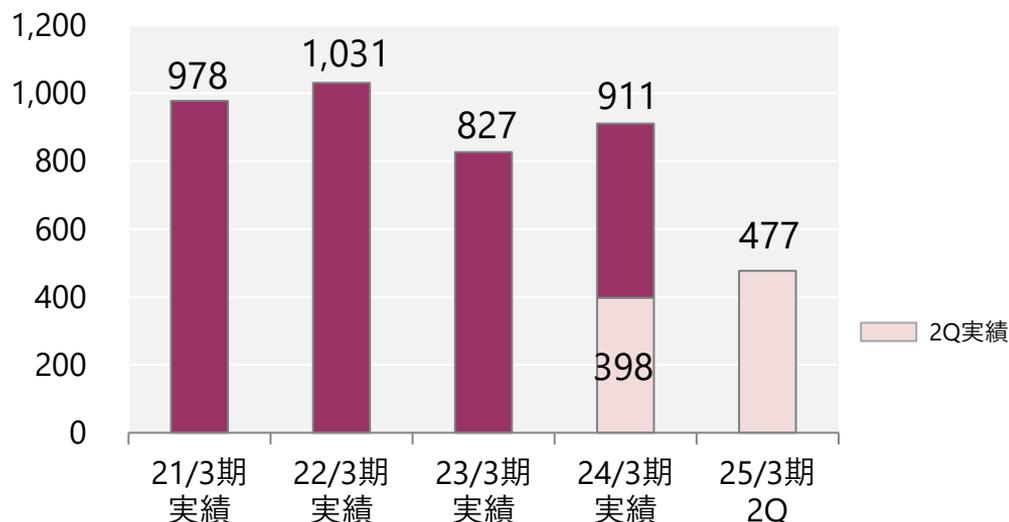
再生医療製品事業：皮膚領域（ジェイス・ジャスミン）

- ✓ 当中間会計期間における売上は、477百万円（前年同期比19.9%増）。
- ✓ 熱傷領域では、最新情報の提供などこれまで進めていた重点施策が奏功し、受注が回復した結果、第1四半期の下振れを挽回する着地となった。今後も、熱傷治療の最新情報をお届けする医局説明会や地方研究会でのセミナーを推進する。
- ✓ 先天性巨大色素性母斑では、ジェイスを併用する新たな治療法を進める施設での受注が続いており、順調に売上を伸ばしている。
- ✓ 2023年3月に、非外科的治療が無効又は適応とならない白斑を対象として承認されたメラノサイト含有自家培養表皮（販売名：ジャスミン）が、2024年10月1日付で保険収載された。今後、普及に向けて医療機関と連携し、スムーズな立ち上げを図るとともに、売上拡大を図る。



(百万円)

皮膚領域 売上高の推移



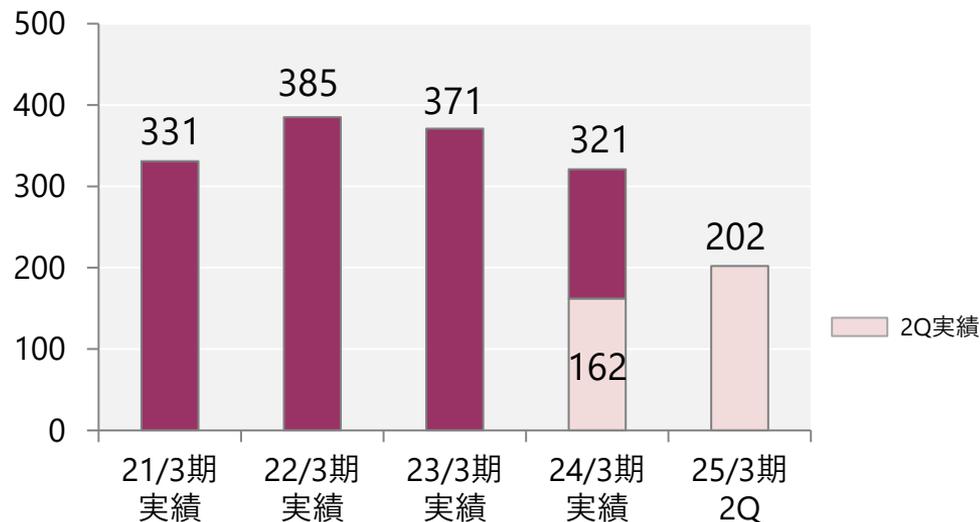
再生医療製品事業：軟骨領域（ジャック）

- ✓ 当中間会計期間における売上は、202百万円（前年同期比24.7%増）。
- ✓ コロナ禍で落ち込みのあった医療機関からの需要が高まり、売上が拡大した。
- ✓ ジャックの有効性を訴求する営業活動を着実にを行った結果、膝関節専門医への認知も着実に広がっている。併せて、令和6年度診療報酬改定により6月から保険償還価格が引き上げられたことも、売上増加に寄与している。
- ✓ また、6月には変形性膝関節症への適応拡大に向けて一部変更承認申請を行った。2026年3月期の上市を目指す。



(百万円)

軟骨領域 売上高の推移



再生医療製品事業：角膜領域（ネピック・オキュラル）

- ✓ 当中間会計期間における売上は、62百万円（前年同期比37.3%減）。
- ✓ 候補となる待機患者への移植が一巡して売上が鈍化しているが、片眼にオキュラルを移植した両眼性疾患の患者さんに対する対側眼への受注が入り始めた。
- ✓ 当社の強みである医師への治療啓発及び潜在患者の発掘を推進するため、販売を担う株式会社ニデックの営業活動に加え、当社のリソースを積極投入する新たな施策を開始した。

ネピック[®]
自家培養角膜上皮

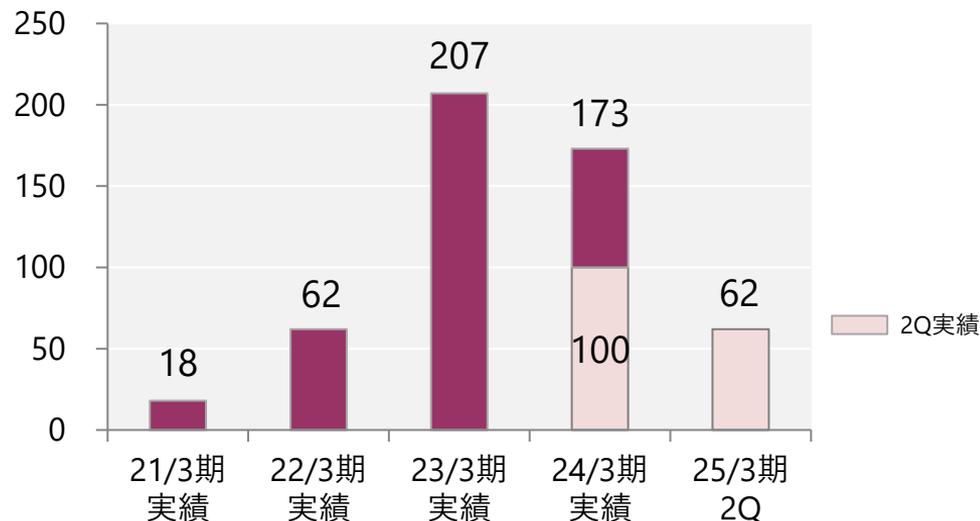


オキュラル[®]
自家培養口腔粘膜上皮



(百万円)

角膜領域 売上高の推移



再生医療受託事業

- ✓ 当中間会計期間における売上は、309百万円（前年同期比34.1%減）。
- ✓ 一般顧客受託（親会社以外からの受託）においては、受託案件の開発ステージの進展等に伴い売上を拡大したものの、帝人からのマイルストーン*及び受託収入の減少が大きく、売上全体は前年同期比で減少した。
- ✓ 受託先の再生医療用細胞製品について、国内第Ⅱ相臨床試験の第1例目の移植が実施される等、開発製造受託（CDMO）・開発業務受託（CRO）に係るサービスをタイムリーかつシームレスに提供することができた。
- ✓ 帝人との共創の取り組みとして、帝人リジェネット株式会社と共同で展示会出展をするなど、さらなるビジネスチャンスを創出するための活動を強化している。

* 帝人からのマイルストーン収入

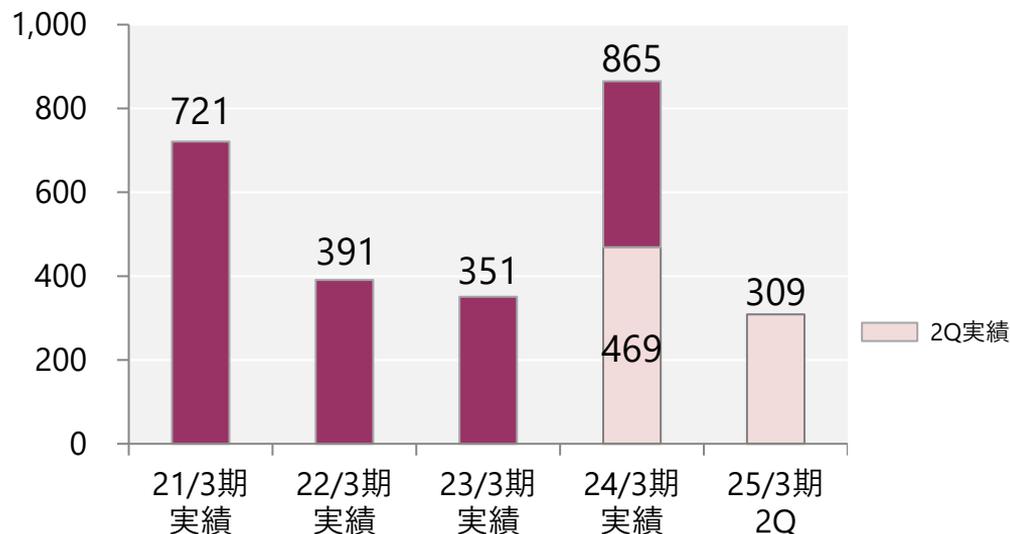
前中間会計期間（2024年3月期）：170百万円

当中間会計期間（2025年3月期）：50百万円



（百万円）

再生医療受託事業 売上高の推移



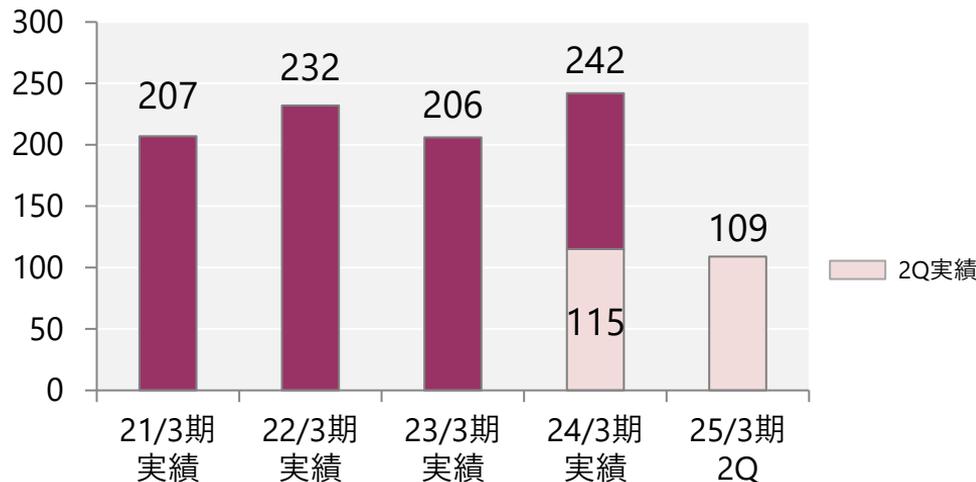
研究開発支援事業：ラボサイト

- ✓ 当中間会計期間における売上は、109百万円（前期比5.6%減）。
- ✓ 海外からの引き合いは増加しているものの、国内大口顧客における研究がひと段落するタイミングと重なったことから、前年同期と比較し売上が減少した。
- ✓ 2024年6月末、当社の主力製品であるエピ・モデル24を用いた新たな標準法として、花王株式会社により開発された皮膚感作性試験法「EpiSensA（エピセンサ）」が、OECDテストガイドライン442Dへ収載された。ヒト3次元培養表皮モデルを用いた皮膚感作性試験としては、世界初のテストガイドライン収載となった。
- ✓ 本収載を足掛かりに、国内外での拡販に向け、活動を開始している。エピ・モデル24に対する高い関心が示されるなど順調に認知獲得を進めている。国内においても既存顧客へのきめ細やかなフォローや新規顧客獲得のためのプロモーション活動を強化している。



（百万円）

研究開発支援事業 売上高の推移



2025年3月期 第2四半期累計期間のトピックス一覧

※主なものを抜粋

掲載日	内容
2024年4月12日	第23回日本再生医療学会総会 優秀演題賞2演題受賞のお知らせ ～間葉系幹細胞に関する当社基礎研究の取り組み～
4月22日	蒲安市制施行70周年記念式典にて特別感謝状を受贈 ～「再生医療のまち蒲安」への貢献～
6月1日	自家培養軟骨ジャック 保険収載価格の改定
6月11日	適時開示 2024年度「新あいち創造研究開発補助金」採択
6月12日	立命館大学薬学部と連携・協力に関する協定を締結 ～再生医療を担う次世代の人材育成と産学の交流深化～
6月17日	適時開示 変形性膝関節症への適応拡大に向けて 自家培養軟骨「ジャック」の一部変更承認申請書を提出
6月20日	愛知県主催「サイエンス実践塾体験研究室」に協力 ～県内の高校生が最先端の科学技術を大学・企業で体験～
6月26日	ヒト3次元培養表皮モデル「ラボサイト エピ・モデル 24」を用いた皮膚感作性試験法「EpiSensA」が世界標準化
7月26日	「ウクライナ医療者教育支援プロジェクト」への協力
8月6日	第6回プラチナキャリア・アワード「特別奨励賞」を受賞
9月4日	アクチュアライズ社からのプレス発表のお知らせ
9月17日	適時開示 乾燥他家（同種）培養表皮 Allo-JaCE03：臨床試験の進捗に関するお知らせ
10月1日	適時開示 メラノサイト含有自家培養表皮「ジャスミン」保険収載のお知らせ

再生医療製品事業

メラノサイト含有自家培養表皮ジャスミン 保険収載

- ✓ 保険収載に向けて厚生労働省と協議を続けてきたが、このたび、2024年10月1日付で保険収載となった。
- ✓ 2024年10月11日販売開始。

ジャスミン
メラノサイト含有自家培養表皮



尋常性白斑の患者数
(国内)

約**15**万人

既存の治療法が奏功しない**難治性の
白斑**に対する新たな治療の選択肢



【ジャスミン移植のイメージ】

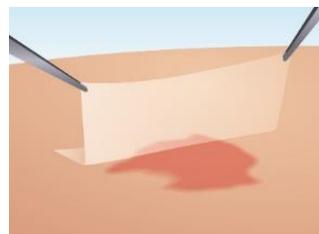
①白斑の患部



②表皮相当部分を
レーザー等で剥削



③培養表皮を移植



④白斑の治癒



保険収載 2024年10月1日から

2024年10月1日付「メラノサイト含有自家培養表皮「ジャスミン」保険収載のお知らせ」

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2506061/00.pdf>

「ジャスミン」 保険収載価格

- ✓ 自家培養表皮ジェイスと同等の価格となった。

保険収載 2024年10月1日から

150ヒト自家移植組織

機能区分		償還価格
自家培養表皮	① 組織運搬セット	4,460,000円
	② 培養表皮パッケージ	154,000円 / 枚

※メラノサイト含有自家培養表皮ジャスミンは高額療養費制度の対象であり、患者さんの自己負担額は、所得にもよるが、月額6～25万円程度(2024年9月末日現在)とされている。



2024年10月1日付「メラノサイト含有自家培養表皮「ジャスミン」保険収載のお知らせ」

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2506061/00.pdf>

再生医療製品事業 「ジャスミン」 保険適用に関する留意事項（抜粋箇所解説）

- ✓ 保険適用に関する条件について当局と協議を重ねてきた結果、以下のとおり「医師要件」が設定された。
- ✓ 医師と連携し、多くの患者さんに本治療をお届けできるよう体制構築を進める。

皮膚移植術

3 例以上
実施経験



「K014」皮膚移植術（生体・培養）を術者として3例以上実施した
経験を有する常勤の医師

又は「K014」皮膚移植術（生体・培養）を術者として3例以上
実施した経験を有する医師の指導下で当該手術を実施する常勤の
医師であること。



製品化から実用化まで：イノベーションの実現に向けて

✓ 当社は、自家の再生医療等製品の製品化から実用化までを乗り切る強みを保有している。



ジャスミンも
スタートラインに立った

乗り切るために
必要なこと

- ・生産体制の構築
- ・適切な規制対応
- ・信頼性保証

承認取得

- ・生産体制の構築
- ・適切な規制対応
- ・販売準備
- ・信頼性保証

保険収載

- ・市場環境の整備
- ・使用方法の確立
- ・医療文化の醸成
- ・信頼性保証
(使用成績調査)

実用化

★素晴らしい技術シリーズ

無理のある製品設計

規制環境

医師への啓蒙

課題

従前の製品設計の踏襲

医療財源の制限

なじまない医療文化

従前のビジネスモデルの踏襲

使用成績調査の実施

- ✓ 自家培養表皮ジェイス（重症熱傷）、自家培養軟骨ジャックともに、再審査期間（7年間）において全症例を対象とした使用成績調査を実施。再審査の結果、厚生労働省により承認時の有効性と安全性が改めて確認された。
- ✓ ジャスミンも同様に、今後、再審査期間（8年間）における全症例を対象とした使用成績調査を実施していく。

自家培養表皮ジェイス（重症熱傷） 2017年7月再審査終了 効能・効果に変更なし



平成 29 年 7 月 14 日

各位

会社名 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
 代表取締役 社長執行役員 比留間 愛一郎
 (コード番号: 7774 JQ)
 本店所在地 愛知県蒲郡市三谷北通6丁目209番地の1
 問合せ先 取締役 執行役員 山岡 寿一
 電話番号 0533-66-2020 (代表)

自家培養表皮ジェイス 重症熱傷) 再審査終了のお知らせ

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング(本社:愛知県蒲郡市、代表取締役:比留間愛一郎)は、重症熱傷の治療に使用されている再生医療等製品「自家培養表皮ジェイス®」(以下、ジェイス)について、厚生労働省による再審査(※)が終了し、重症熱傷の【効能、効果又は性能】に変更はございませんでしたのでお知らせいたします。

再生医療等製品として、再審査終了は国内初です。

※再審査:承認後一定期間が経過した後に、企業が実際に医療機関で使用されたデータを集め、承認された効能効果、安全性について、再度確認する制度。

ジェイス(重症熱傷)は、治験症例が極めて限られていることから、本品の有効性及び安全性を確認するための製造販売後臨床試験の実施と、再審査期間が終了するまでの間、全症例を対象とした使用成績調査の実施が義務づけられていました。当社は、製造販売後臨床試験及び再審査期間である7

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/1496100/00.pdf>

自家培養表軟骨ジャック 2022年6月再審査終了 効能・効果に変更なし



2022年6月27日

各位

会社名 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
 代表取締役 社長執行役員 嶋 賢一郎
 (コード番号: 7774 東証グロース)
 本店所在地 愛知県蒲郡市三谷北通6丁目209番地の1
 問合せ先 執行役員 大林 正人
 電話番号 0533-66-2020 (代表)

「自家培養軟骨ジャック®」再審査結果に関するお知らせ

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング(本社:愛知県蒲郡市、代表取締役社長執行役員:嶋 賢一郎)は、「自家培養軟骨ジャック®」(以下、ジャック)について、厚生労働省による再審査®が終了いたしましたのでお知らせいたします。

「ジャック」は、膝関節における外傷性軟骨欠損症又は離断性骨軟骨炎(変形性膝関節症を除く)の治療を目的として使用されています。当社は「ジャック」の有効性及び安全性を確認するため、再審査期間である7年間にわたり「ジャック」を使用した全症例を対象とする使用成績調査を実施してまいりました。この度、使用成績調査の取りまとめが完了し、再審査の結果、厚生労働省により「ジャック」の承認時の有効性が改めて確認され、【効能、効果又は性能】に変更はございませんでした。

当社は「ジャック」の変形性膝関節症への適応拡大へ向けて治験も行っており、引き続き、「ジャック」をより多くの患者さんへご提供すべく活動を進めてまいります。



自家培養軟骨ジャック®

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2148171/00.pdf>

角膜内皮の再生医療 早期事業化を支援

- ✓ 2024年9月、アクチュアライズ社が開発を進める再生医療用細胞製品「AE101」（適応症：水疱性角膜症）について、国内第Ⅱ相臨床試験の第一例目の被験者への移植を実施したこと、並びにその経過観察により第二例目以降の治験の継続に必要な安全性評価が得られたことが報告された。
- ✓ 引き続き、当社の知見とノウハウを生かし、同社が開発を手掛ける角膜内皮の新たな治療法である再生医療製品候補の早期事業化を支援していく。

当社は
国内第Ⅱ相臨床
試験に用いられる
「AE101」の
製造を受託

開発製造受託（CDMO）・開発業務受託（CRO）
に係るサービスをタイムリーかつシームレスに提供



2024年9月4日付「アクチュアライズ社からのプレス発表のお知らせ」

<https://www.jp-tec.co.jp/news-release/details/486>

皮膚感作性試験法「EpiSensA」が世界標準化

- ✓ 2024年6月、花王株式会社が開発した、当社製品ヒト3次元培養表皮モデル「ラボサイト エピ・モデル 24」を用いた皮膚感作性試験法「EpiSensA」が、経済開発協力機構テストガイドライン(OECD TG442D)に収載（標準化）された。
- ✓ 今後も、「ラボサイト シリーズ」の提供を通じて動物実験代替を支援し、日用品、医薬品、化粧品、化学品メーカーなど、広く化学物質を扱う国内・海外の企業の開発をサポートする。

「EpiSensA」

ヒト3次元培養表皮モデル「ラボサイト エピ・モデル 24」を用いた
皮膚感作性試験法（開発元：花王株式会社）

世界初 国内外での拡販の足掛かりに

ヒト3次元培養表皮モデルを用いた
皮膚感作性試験法の標準化
OECD TG442D収載

ラボサイト エピ・モデル24



皮膚感作性試験とは

化学物質が皮膚に接した場合に皮膚アレルギーを誘発するリスクを評価する試験

2024年6月26日付「ヒト3次元培養表皮モデル「ラボサイト エピ・モデル 24」を用いた皮膚感作性試験法「EpiSensA」が世界標準化」

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2465303/00.pdf>

3. 開発パイプラインの進捗

開発パイプラインの上市目標

✓ 開発は着実に前進している。

➡ : 進展



乾燥他家（同種）培養表皮（Allo-JaCE03）

- ✓ 当社は、乾燥他家（同種）培養表皮「Allo-JaCE03」の承認申請に必要な臨床試験を完了し、治験終了届書を独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）へ提出した。
- ✓ 今後速やかにデータを取りまとめ、2026年3月期の上市に向けて、製造販売承認申請を進めていく。
- ✓ また、本製品が他家製品・乾燥品である特長を生かし、国内だけでなく海外市場への展開も加速させていく。

治験完了 早期に製造販売承認申請へ

上市目標時期：2026年3月期

治験の主な解析結果

- 主要評価項目である初回貼付後7日目における Allo-JaCE03 貼付部位の上皮化率は、既存の治療法による上皮化率の推定値に比べて統計学的に有意に上回ることが示された（ $p=0.0123$ Student の t 検定）
- 安全性については、問題となる有害事象は認められなかった



自家培養軟骨ジャック：変形性膝関節症への適応拡大

- ✓ 2024年6月、当社は、変形性膝関節症（OA）への適応拡大に向けてジャックの一部変更承認申請を行った。
- ✓ 臨床試験においては、ヒアルロン酸ナトリウム製剤投与群に対して統計的に有意な臨床症状の改善が示されたことに加え、自家培養軟骨の移植により、変形性膝関節症の軟骨欠損部において硝子軟骨様組織による修復が確認された。
- ✓ ジャックは、既存の適応において7年間にわたる使用成績調査でも有効性が確認され、全国47都道府県で使用実績がある。エビデンス（実績）が豊富な製品であり、適応拡大によってより多くの患者さんの選択肢となることを目指す。

2024年6月 一部変更承認申請

- 硝子軟骨様組織による修復は、OAの根本的治療に繋がる効果が期待される
- 適応追加により、OA患者さんの著しく低下した日常生活のQOL向上が期待できる

（治験参加医師の声）



エビデンス
（実績）

上市目標時期：2026年3月期



変形性膝関節症
推定患者数

約 **1,000** 万人

4. サステナブルな企業をめざして

サステナブルな企業をめざして

立命館大学薬学部と連携・協力



2024年6月12日付
立命館大学薬学部と連携・協力に関する協定を締結
～再生医療を担う次世代の人材育成と産学の交流深化～
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2459486/00.pdf>

大学との連携

プラチナキャリア・アワード 「特別奨励賞」を受賞



2024年8月6日付
第6回 プラチナキャリア・アワード「特別奨励賞」を受賞しました
<https://www.jpce.co.jp/columns/details/480>

社員のキャリア形成サポート

蒲郡市・学校法人海陽学園との 協定を締結



2024年10月7日付
蒲郡市、学校法人海陽学園と
人材育成・産業振興に関する協定を締結～地域貢献および日本の医療産業の発展に向けて～
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2507765/00.pdf>

産学官連携を通じた地域貢献

5. 参考資料

貸借対照表の概要

(単位：百万円) (百万円未満切捨て表示)		2024年3月期 2024年3月31日	2025年3月期 2024年9月30日	増減額	
流動資産	5,339	4,894	△444	現金及び預金ならびに 売上債権の減少等	
固定・繰延資産	1,649	1,592	△57		
資産合計	6,988	6,487	△501		
流動負債	873	590	△283	未払金の減少等	
固定負債	34	41	7		
負債合計	908	632	△276		
資本金	4,958	4,958	-		
資本準備金	2,788	2,788	-		
利益剰余金	△1,666	△1,892	△225		
純資産	6,080	5,855	△225	中間純損失の計上	
負債・純資産合計	6,988	6,487	△501		

キャッシュフローの概要

(単位：百万円) (百万円未満切捨て表示)	2024年3月期 第2四半期累計実績	2025年3月期 第2四半期累計実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	159	△186
投資活動によるキャッシュ・フロー	△191	△42
財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0
現金及び現金同等物の増減額 (△：減)	△31	△229
現金及び現金同等物の期首残高	2,034	2,066
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,002	1,836

- ✓ 営業活動によるCF： 営業活動の結果使用した資金は186百万円（前年同期は159百万円の獲得）。主には、税引前中間純損失。
- ✓ 投資活動によるCF： 投資活動の結果使用した資金は42百万円（前年同期は191百万円の使用）。主には、有形固定資産の取得による支出。
- ✓ 財務活動によるCF： 財務活動の結果使用した資金は0百万円（前年同期は0百万円の使用）。主には、自己株式の取得。
- ✓ 現金及び現金同等物の期末残高：
期首残高2,066百万円に対し、中間期末残高は1,836百万円となった。なお、貸借対照表中の現金及び預金（4,036百万円）との差額は、預入期間が3カ月を超える定期預金（2,200百万円）分に該当する。

当社の再生医療等製品 一覧 (2024年10月現在)

1

国内第1号の再生医療等製品

自家培養表皮



製造販売承認
2007年10月
保険収載
2009年1月

2

日本発の技術を製品化した
国内第2号の再生医療等製品

自家培養軟骨



製造販売承認
2012年7月
保険収載
2013年4月

3

眼科領域で国内初の
再生医療等製品

自家培養角膜上皮



製造販売承認
2020年3月
保険収載
2020年6月

4

眼科領域で2つ目の
再生医療等製品

自家培養口腔粘膜上皮



製造販売承認
2021年6月
保険収載
2021年12月

5

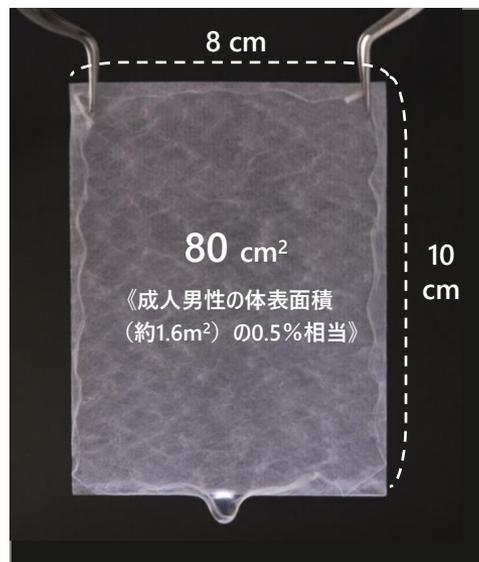
患者さんが多い白斑治療用
再生医療等製品メラノサイト含有
自家培養表皮

製造販売承認
2023年3月
保険収載
2024年10月

製品

製品
外観承認
時期

自家培養表皮ジェイス



適応対象 ① 重症熱傷

受傷面積として深達性Ⅱ度及びⅢ度熱傷創の合計面積が体表面積の30%以上の熱傷を適応対象。

② 先天性巨大色素性母斑

母斑面積が体表面積の5%以上の治療など、既存の標準的な治療では母斑の切除に対応しきれない場合に適用。

③ 栄養障害型表皮水疱症及び接合部型表皮水疱症

4週間程度持続しているびらん・潰瘍及び潰瘍化と再上皮化を繰り返すびらん・潰瘍に対して適用。

保険償還
価格

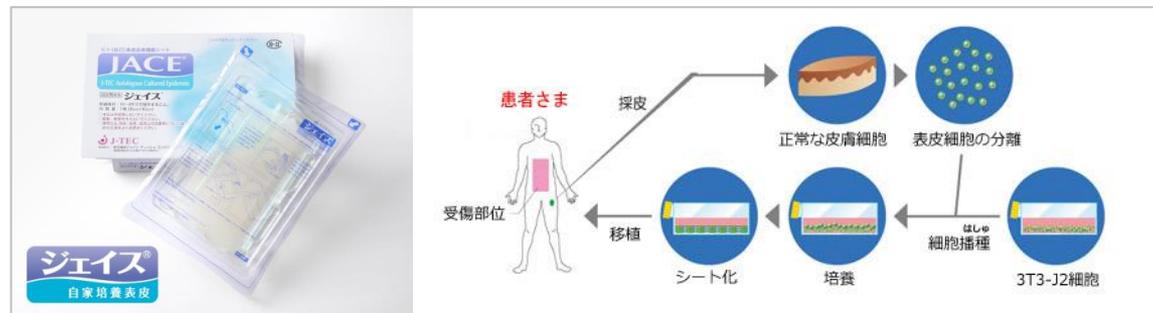
① 採取・培養キット： 4,460千円

② 調製・移植キット： 154千円 / 枚

算定限度：40枚（熱傷）ただし、医学的に必要がある場合は、その理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載した上で50枚を限度として算定できる。30枚（母斑）、50枚（表皮水疱症）

技術
導入元

米ハーバード大学 Howard Green 教授



自家培養軟骨ジャック



適応対象

膝関節における外傷性軟骨欠損症又は離断性骨軟骨炎
(変形性膝関節症を除く)

の臨床症状の緩和。ただし、他に治療法がなく、

かつ軟骨欠損面積が4cm²以上の軟骨欠損部位に適用する場合に限る。

保険償還
価格

2024年6月1日～

① 採取・培養キット： 1,000千円

② 調製・移植キット： 1,890千円 (使用した個数に係らない)

技術
導入元

広島大学 越智 光夫 教授



自家培養角膜上皮ネピック



販売：株式会社ニデック



適応対象

角膜上皮幹細胞疲弊症

ただし、以下の患者を除く。

- ・スティーヴンス・ジョンソン症候群の患者
- ・眼類天疱瘡の患者
- ・移植片対宿主病の患者
- ・無虹彩症等の先天的に角膜上皮幹細胞に形成異常を来す疾患の患者
- ・再発翼状片の患者
- ・特発性の角膜上皮幹細胞疲弊症患者

保険償還
価格

- ① 組織運搬セット： 4,280千円
- ② 培養角膜上皮パッケージ： 5,470千円

技術
導入元

イタリア G Pellegrini教授・M De Luca教授



自家培養口腔粘膜上皮オキュラル



販売：株式会社ニデック



適応対象 角膜上皮幹細胞疲弊症

保険償還
価格

① 組織運搬セット： 4,280千円
② 培養口腔粘膜上皮パッケージ： 5,470千円

技術
導入元

大阪大学 西田 幸二 教授



メラノサイト（色素細胞）含有自家培養表皮ジャスミン



適応対象

非外科的治療が無効又は適応とならない白斑

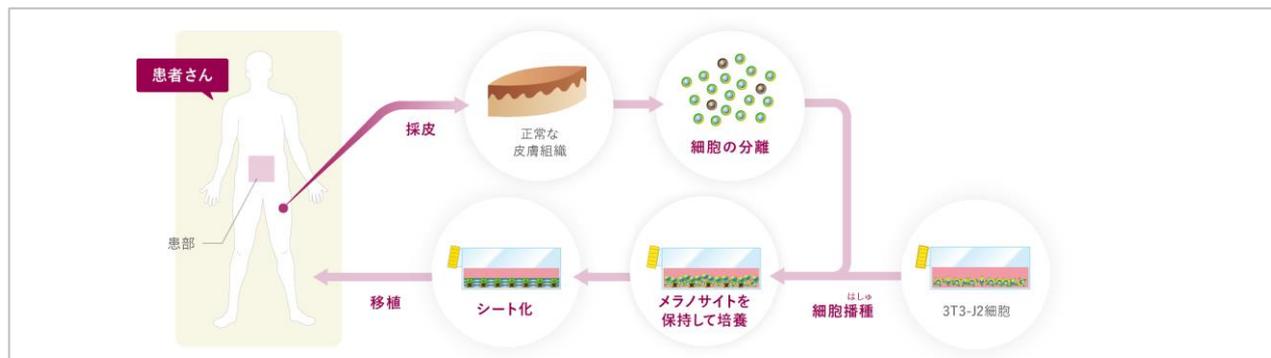
12ヶ月程度症状が固定した尋常性白斑、vogt-小柳-原田病若しくは化学物質による完全脱色素斑、又はまだら症などの先天性異常による完全脱色素斑

保険償還
価格

- ① 組織運搬セット： 4,460千円
② 培養表皮パッケージ： 154千円 /枚

技術
導入元

イタリア G Pellegrini教授・M De Luca教授



本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング

〒443-0022 愛知県蒲郡市三谷北通6-209-1

TEL: 0533-66-2020 FAX: 0533-66-2019

Email: jtec-info@jpte.co.jp